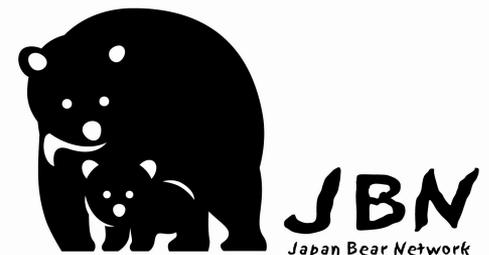


緊急クマシンポジウム 2007年2月11日

日本クマネットワークからの提言

日本クマネットワーク(JBN)

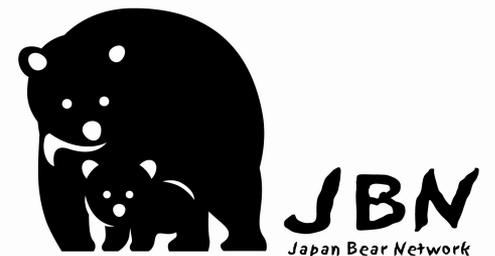
代表 坪田敏男



問題点の整理

- 1) 2006年夏～秋にツキノワグマの大量出没があった。
→原因が未解明である。
- 2) 人身事故や農作物被害が多発した。
→事故や被害の検証ができていない。
- 3) 全国で約4,300頭のツキノワグマが捕殺された。
→個体群への影響が心配されるが、日本のクマの正確な個体数が算定されていない。
- 4) 学習放獣など非致死対応が少ない。
→対応策が未確立、保護管理の人材不足、過剰なクマへの恐怖心

国への政策提言



総務省への提言

- 1)クマをはじめとする野生動物対策事業への地方公共団体の財源を確保する措置を拡充する。
- 2)クマをはじめとする野生動物の保護管理活動に携わる専門官制度を都道府県に設ける。
- 3)クマをはじめとする野生動物の保護管理活動に携わる専門官を環境省，地方環境事務所に配置する。

環境省への提言：モニタリング

- 1) 全国レベルでの精度の高い個体数推定調査を実施する。
- 2) 全国レベルで継続しなければならないモニタリングの水準を明確にする。
- 3) 管理ユニット(地域単位)を決めて、ユニットごとのモニタリング体制を構築する。
- 4) 専門家からなる助言委員会(全国及びユニットごと)を設置し、実効力のあるモニタリングを担保する。

環境省への提言：保護管理システム

- 1) 管理ユニットを決めて、ユニットごとの管理体制を構築する。
- 2) クマをはじめとする野生動物の保護管理活動に携わる専門官制度を設ける。
(環境省本省，地方環境事務所，都道府県)
(現行の鳥獣保護員制度の見直し)
(都道府県レベルの専門官は全国で300人)
- 3) システムの構築にあたっては農林部局の参画を要請する。

環境省への提言：適正な狩猟のあり方

- 1) 狩猟は人間とクマの共存を図る上で重要な意義をもつ。このため、資源としてのクマの活用について議論を深め、適切なクマの狩猟の維持・発展を図る。
- 2) 熊胆管理体制の構築を図る。

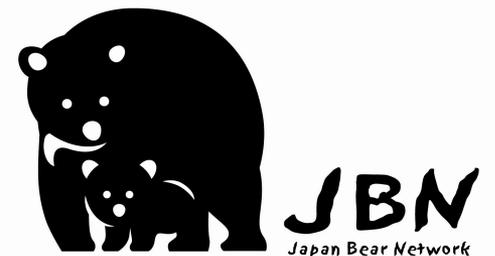
農林水産省・林野庁への提言

- 1) 被害防除施策の普及と実施体制の構築を急ぐ。
- 2) 森林管理全般に生息地管理の視点を入れる。
- 3) 国有林野の管理に野生動物の保全を位置づける。
- 4) 野生動物に関する人材を確保する。
- 5) 共存技術開発のモデルとして国有林における放獣試験を実施する。
- 6) 生態系管理について必要なモニタリングを実施する。

文部科学省への提言

- 1) 野生動物管理を担う人材の育成課程(カリキュラム)の設置・拡充を図る。
- 2) 初等教育からのクマを初めとする野生動物とのつきあい方について学習する機会を設置する。
- 3) 野生動物保全の普及活動を促進するため、博物館の機能を充実させる。

地方自治体への提言



野生動物の生息環境の広がりや共通課題を 考慮した市町村連携(管理ユニット)体制の 構築

- 1) 管理ユニットにおける対策方針の統一と共有が必要である。
- 2) 情報収集システムの統一と情報の共有・蓄積、分析が必要である。

都道府県の担当機関と管理ユニットの 密接な連携・支援が必要

- 1) 各種課題に関する管理ユニット内の調整・管理ユニット間の調整
- 2) 全県的統一管理方針の策定と管理ユニットごとの方針の調整
- 3) 情報の広域的・長期的分析とその結果のフィードバック
- 4) 管理ユニットに対するその他の必要な支援・助言・指導

現地に密着して各種対策を地域と共に あたる人材の配置が不可欠

- 1) 繰り返される大量出沒、過疎化や里山の環境変化、狩猟者人口の激減などが予測される中、現場の対応要員の配置を進めなければ危機的な状況に陥る。
- 2) 被害問題の解決のためには人材の確保が至上命題であり、これがないと問題の解決はありえない。
- 3) 国内外で開発・試行されてきた対応策を実行する人材と財源がないために、地域の問題がいつこうに改善されない。
- 4) 管理ユニット内の複数市町村と都道府県が予算を持ち寄って人材を配置するシステム、既存の鳥獣保護員制度の見直しなど、人材配置を早急に検討する。

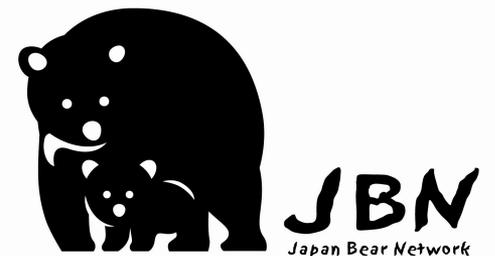
個体群や生息地の広がりを考慮した都道府県間の広域的連携のシステムが必要

- 1) 県境を越えて存在する対象個体群に対して、一貫的、統一的対策を行わなければ効果が望めない。
- 2) 複数の都道府県にまたがる地方単位の野生動物保護管理システムを構築し、県ごとに異なる対応が行われる現状を改善しなければならない。
- 3) 広域野生動物管理の仕組みを国として定める必要性を要請していくべきである。

鳥獣行政における国と都道府県など地方の役割を明確化する

昨今の財政困窮の情勢の中、各都道府県内における必要な事業を担当部局から企画・事業化していくことが困難である。

研究の課題



大規模研究プロジェクトの必要性

- 1) 保護管理計画により捕獲上限など設定されているが根拠が不十分
- 2) どの程度まで捕獲しても地域個体群が安定生息できるレベルに維持できるのかわからない
- 3) クマの基礎的な情報も欠如
- 4) 長期的に個体数をモニタリングする枠組みが必要
- 5) 個体数推定の手法の標準化が必要
- 6) 今までの規模・期間の研究ではわからない

外国の例： スκανジナビアヒグマ研究プロジェクト

1984年～ スウェーデン

1987年～スウェーデンとノルウェーの共同事業

年間予算 約250万クローネ(約4,250万円)

その主な拠出もとは：

ノルウェー国立野生生物管理庁

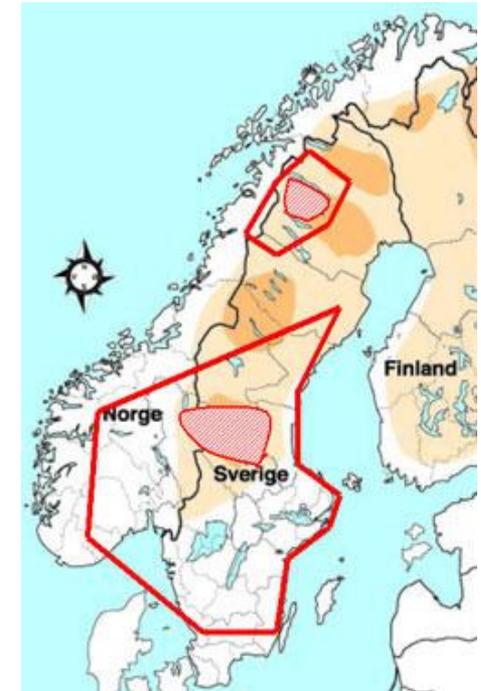
スウェーデン国立野生生物管理庁

ノルウェー科学研究評議会

WWFスウェーデンを中心とする非政府組織

スウェーデン狩猟協会

オルサ自治林



■ The Scandinavian Bear Project

<http://www.bearproject.info/english/bearproject.php>

■ Orsa Bear Park

http://www.orsagronklitt.se/Bjornprojektet_eng.asp

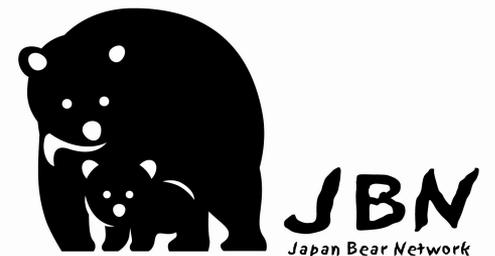
提案1：大規模調査プロジェクト！

- 1) 個体数推定法の標準化
- 2) 強度の捕獲標識による個体群動態パラメーター算定
- 3) GPSテレメトリー調査による行動追跡
- 4) 堅果類の豊凶など環境評価
- 5) おおよそ5年計画
- 6) 5年目以降は、継続調査を行いつつ、地方自治体レベルでの経常予算の中でモニタリングへと移行する。
- 7) JBNが推奨する標準的手法やそのマニュアルを作成する

提案2: 情報収集・整備・管理

- 1) 全国で行われている研究, 調査, 管理活動の
成果が分散・不透明
- 2) 情報を共有し比較できるための形式の統一・
共有化
- 3) 既存の資料の集約的管理

JBN独自の活動



調査研究に基づくクマ情報の配信強化

- 1) 緊急レポートや刊行物を用いての行政や報道機関への情報提供
- 2) ウェブサイトを通しての、情報提供と、クマ類に関する科学的情報アーカイブのデータベース化と公開

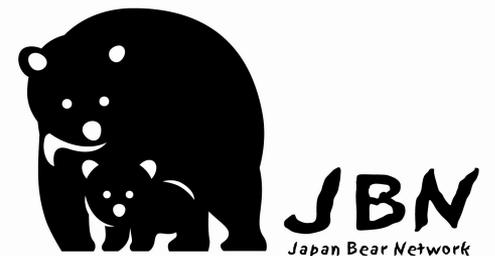
JBNの活動及びネットワーク機能強化

- 1) 活動基金創設やJBN法人化の検討**
- 2) クマとの共生を進める上で必要なさまざまな分野の人々へのネットワーク参加の呼びかけ（例えば社会学関係者）。**

アジアクマ関係者とのネットワーク構築

- 1) 調査研究・普及啓発・クマ類データベース共有などの連携
- 2) クマ類の保全についての国際的な貢献

広報のあり方



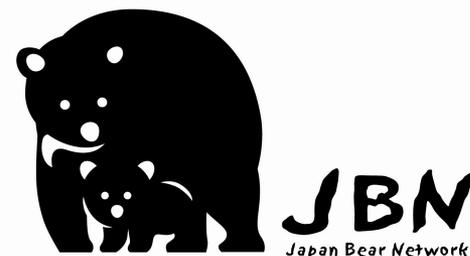
クマに関する正しい意識を、広く一般や社会に伝え、意識を変える

- 1) **マスコミ**は、事実関係を把握し、正しい情報を報道する。
- 2) **警察**は、正しく、適切な情報をマスコミに伝える。また、クマに関する危機管理意識を持つ。
- 3) **行政機関**は、役割分担を明確にし、情報の確認システムを構築する。また、事実関係を確かめてから情報を発信する。
- 4) **市民団体**は、様々な情報を収集・整理し、適切な情報を発信する。また、関係機関の隙間（ギャップ）を埋める努力をする。

クマに関する正しい意識を、広く一般や社会に伝え、意識を変える(続き)

- 5) **学校・教育機関**は、正しい情報・対処法を生徒に伝える。
- 6) **観光関係者**は、観光客に適切に情報を伝える。
- 7) **研究者**は、研究成果を科学的に確かな内容、不確かな内容などの的確に整理して情報を発信する。
- 8) **政策担当者**は、クマに関する情報や知見を正しく理解し、政策に反映させる。

一般市民にできること



クマを知る、寄せ付けない、会わない

- 1) クマをよく知る。(生態、習性、行動、分布など)
- 2) 日常生活で、被害防除や危険回避対策を行う。

例えば、ごみの管理やクマよけの鈴を持ち歩く

- 3) クマなど野生動物に関わる活動に積極的に参加する。

例えば、クマ観察会や学習会、柿もぎや藪払い

- 4) 行政への積極的な働きかけを行う。

住民の声は重要！

現在までに行われてきた活動事例

- 1) 環境教育
- 2) ゴミの管理
- 3) 遭遇回避
- 4) 農業被害対策
- 5) 柿もぎ
- 6) トタン巻き
- 7) 藪払い
- 8) 広葉樹植林
- 9) トラスト
- 10) 児童安全確保 など

その他の活動の提案

- 1)クマについての話題を日常でも増やす
- 2)エコツーリズム(地元:企画、都市:参加)
- 3)簡単なクマの調査に参加する
- 4)クマに関する情報を形にする
(例えば、通学路の目撃ポイントマップ)
など